



# めむろ社協だより

No.353  
平成28年  
10月号

「社協」とは、社会福祉協議会の略称です。

〒082-0012 北海道河西郡芽室町東2条2丁目15番地1 ふれあい交流館内 ☎62-1616 ㊟62-1657  
芽室町社会福祉協議会公式HP [http://http://www.memuro-syakyo.jp/](http://www.memuro-syakyo.jp/)



めむろ社協だよりは「赤い羽根共同募金」の助成を受け、発行しています。

芽室町社会福祉協議会は、総務係(あおぞら芽室会)、地域福祉係(芽室町共同募金委員会、芽室町老人クラブ連合会、芽室町ボランティアセンター、ふれあいサロン「なごみ」、身体障害者福祉協会芽室町分会)、訪問介護係・障がい者支援係(ホームヘルパー)、通所介護係(「あいあい21」デイサービスセンター)、居宅介護支援係(ケアマネジャー)、小規模多機能型居宅介護係(ふたば)の7係で構成されています。



## 大きな善意を募金箱へ

# 10月1日赤い羽根共同募金 始まりました

皆さんの温かいご理解とご協力をお願いいたします

### 街頭募金でのご協力に感謝いたします

10月1日と2日に、ダイイチ(株)芽室店、ファーマーズマーケット愛菜屋で街頭募金を行い、多くの皆様から心温まる募金をいただきました。ありがとうございました。

〔街頭募金協力団体〕

(順不同、敬称略)



西士狩友愛会・J.A.コスモスの会・障がい福祉サービス事業所(多機能型)オークル・新得地区保護司会芽室町分区分・毛根芽室太友の会・北伏古楡の会・めむろ柏ふまねつとクラブ・栄長寿会・芽室町老人クラブ連合会・坂の上老人クラブ・芽室町赤十字奉仕団・上伏古老人クラブ・美生老人クラブ・

オカリナサークル・洪山長寿会・身体障害者福祉協会芽室町分会・中伏古老人クラブ・芽室明るい社会づくり運動協議会

社会福祉協議会役職員

【お問い合わせ先】

芽室町共同募金委員会(芽室町社会福祉協議会内)

東2条2丁目15番地1 ふれあい交流館内

☎62-1616



支えあうココロ、未来へ。

## 赤い羽根共同募金

## ボランティア活動にご協力ありがとうございました

去る8月末、芽室町等を襲った台風10号。芽室川や美生川の沿線地域では、深夜の避難勧告や避難指示で大勢の方が避難を余儀なくされ、避難所で眠れない夜を過ごされました。

台風が去った後、床上や床下浸水で溜まった汚泥の処理が被災者の皆さんの大きな課題になりました。

芽室町社会福祉協議会では、災害後町からの依頼を受けて9月6日に「災害ボランティアセンター」を立ち上げましたが、それ以前から支援に参加していただけるボランティアを募集いたしました。その結果、休日を中心に6日間で延べ300名以上の



人たちに町内外から参加いただき、汚泥の処理や家具の搬出など困難な作業に一生懸命汗を流していただきました。

また、町役場や北海道社会福祉協議会の全面的な協力を得て災害ボランティアセンターのスムーズな運営にあたることができました。

さらに、近隣市町村の社会福祉協議会や北海道日本ハムファイターズの協力も得て、被災された方々への支援と復興への祈りを届けることができました。

ボランティア活動に参加していただいた皆さんに心からお礼を申し上げますとともに、この先まだ時間はかかると思いますが、被災された皆さんが一日も早く以前の生活に戻られることを心からお祈りしております。

なお、災害ボランティアセンターは、9月30日で閉所いたしました。

庭の汚泥処理を終え、汚れた長靴とシャベルを洗っていたAさん。  
あなたは、洗い場に溜った何十人分もの土をかき出していましたね。  
誰に言われたわけでもない、さりげないあなたの行ない。  
その後ろ姿はまぶしく心に染みしました。  
Aさん、あなたにとってその二つの土は同じ「つち」だったのですか。  
(H・E)

## 開催します！ 成年後見制度個別相談会

・老後の財産管理が心配だ  
・親族は遠方で、万が一のとき頼る人がいない  
・成年後見制度はどんなことをしてくれるのだろうか

こんな不安や疑問はありませんか？  
成年後見制度に関する悩みごとに専門家が  
お答えします。是非この機会をご活用ください。

■と き 平成28年10月28日(金) 14時～  
■と ころ ふれあい交流館(役場東隣)1階 作業訓練室  
■相談料 無料  
■相談員 公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート道東支部 遠藤 豊和 氏  
■概要 ①1組当たり40分程度の予約制とし、2～3組程度を予定  
②受付締切は10月20日(木)

■申込先 芽室町社会福祉協議会  
☎62・1616 担当 勝山・澤尻

住 所：西4条4丁目1番地 「西子どもセンター」となり  
☎61-3631 FAX66-9169  
開館時間：火～土曜日9時～17時30分※日・月・祝日はお休みします。  
ただし、土曜日は祝日でも開館します。  
ブログ（「ふたば」と「なごみ」のぼかぼか日記）も見てね～  
<http://nagomi.kakuren-bo.com/>



## ご参加ください！ 「ふまねっと講演会&体験会」

『ふまねっと運動』とは、50cm四方のマス目でできた大きな網をふまないようにゆっくり慎重に歩く運動です。全身のバランスや認知機能を向上させることを重視した『運動学習』プログラムです。

この講演会&体験会は「ふまねっと運動」の考案者・北澤一利氏をお招きして、目的や効果などのお知らせと、実際に体験していただく機会です。ぜひご参加ください。



- と き 10月27日(木) 13時30分～15時30分
- と ころ ふれあい交流館2階「大ホール」
- 講 師 北澤 一利氏 北海道教育大学釧路校教授  
認定NPO法人地域健康づくり支援会ワンツースリー理事長
- 定 員 100名 ※先着順
- 申し込み 10月21日(金)
- そ の 他 動きやすい服装でご参加ください。
- 後 援 芽室町市街地町内会連合会、芽室町老人クラブ連合会

## ふまねっとサポーター養成講習会

「ふまねっと」を通じて地域のみなさんの健康づくりをお手伝いするのが「ふまねっとサポーター」です。自分自身も元気になる活動をしてみませんか？

- と き 11月21日(月)10時～16時30分
- と ころ ふれあいサロン「なごみ」
- 定 員 10名
- 受講料 7,000円 ※めむろ柏ふまねっとクラブに加入する方は無料

■問合せ・申込み 芽室町ボランティアセンター ☎61-3631【担当：柏葉】

## 心配ごと相談日程

10月26日(水)

時間：13時15分～15時30分  
 場所：保健福祉センター2階「静養室」  
 専門相談員：今野 峯夫(人権擁護委員)  
 館盛 静子(学識経験者)

11月9日(水)

時間：13時15分～15時30分  
 場所：保健福祉センター2階「静養室」  
 専門相談員：土岐 一雄(人権擁護委員)  
 和田真由美(行政相談委員)

★問題解決に向けたアドバイスや関係機関などへの橋渡しを行います。  
 ★おおむね月2回、第2・第4水曜日に開設しています。  
 【お問い合わせ先】 地域福祉係 ☎62-1616(担当：澤尻)

## ふれあい交流会日程

(ひとり暮らし高齢者の食事会)

10月28日(金)

時間：11時～  
 場所：ふれあい交流館  
 内容：裁縫活動、誕生会  
 担当ボランティア：かしわ会

11月11日(金)

時間：11時～  
 場所：十勝川温泉・笹井ホテル  
 内容：観劇会  
 担当ボランティア：さつき会

★ふれあい交流会は、ひとり暮らし高齢者の食事会です。  
 ★参加には、事前の会員登録が必要です。  
 【お問い合わせ先】  
 地域福祉係 ☎62-1616(担当：福井)

善意に  
 厚く感謝  
 いたします

平成28年9月1日～9月30日

- ▼一般社団法人帯広青年会議所 50,000円 社会福祉事業のために
- ▼黒田 麗子さん 20,000円 ふれあい交流会でお世話になったお礼として
- ▼鈴木 高さん 100,000円 母の死去に際して

個人情報保護の観点から同意された方のみ掲載しております。  
 この他にも多くの方々にご寄附いただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。



## アットホーム・パン工房「リスどん」

「なごみ」出張販売は10月27日(木)10時30分～12時です

多くの皆様のご利用をお待ちしております！



### 編集後記

■台風10号の被害  
 復旧が未だ続く中、被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。また、「災害ボランティアセンター」立ち上げ以前より、災害支援に活動くださいましたボランティアのみならず、皆さまにも厚くお礼申し上げます。

■この度の災害において、芽室町災害ボランティアセンターが把握している災害支援ボランティアは、述べ300名を超える人になりました。芽室町民のみならず、町外、十勝管外遠くは札幌や旭川圏からの参加もあり、汚泥処理や家具の搬出作業などにご協力いただきました。

■そんな中、四年に一度の祭典、夏季オリピック・パラリンピックも終わり、連日日本人選手の活躍がテレビを賑わせました。

■パラリンピックでは、普段なかなか目にする事のない競技を観て、あらためて驚きと感動で東京開催が、ますます楽しみになるものでした。

■パラリンピック出場の手選手のコメントもトップアスリートとしての発言が多く、選手の意識やレベルの高さを感じるものでした。

■しかし、私個人としては、そんな彼らの活躍が単に障がい者アスリートの活躍としてのみ映されるのではなく、彼らを取り巻く環境：仕事や住まい、暮らし様等生活すべてにおいて、「皆が共に生きる社会づくり」とは、いかにあらためて考えさせられる機会となりました。

(S)